

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 701

1部60円

友の会会員は会費に含まれています

発行 東京勤労者医療会代々木病院

2026年 3月号

院長 河邊 博正

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7

TEL 03(3404)7661

http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

代々木病院機関紙「くらしと健康」

700号(65年)の歩み



1961年に発行された創刊号



2000年6月号(第392号)と
2009年2月号(第496号)



2017年9月号(第599号)と
2019年5月号(第619号)

代々木病院機関紙「くらしと健康」は、みなさまに支えられ2026年2月号で700号を迎えました。創刊の1961年4月から約65年にわたり、無差別平等の医療を掲げ、平和といのち、健康づくりの発信を行ってきました。今後も、地域、患者様と病院をつなぐ広報紙として、わかりやすく、楽しくお伝えしてまいります。今後ともよろしくお願いたします。

創刊号は1961年4月に「代々木病院ニュース」(第1号)として発行されました。当時の代々木病院のベッド不足解消のための増築を決定直後で、資金面での協力も呼びかけました。

1982年8月号(第178号)では、「核兵器の恐ろしさ」を世界に」と題し、当時職員で被爆者担当のソーシヤルワーカーの原玲子さんをヨーロッパ訪問団に派遣することを伝えました。

2000年6月号(第392号)では、現在の本館がオープンしたときの様子が掲載されています。大部屋も4人部屋となりゆったりとしたスペースとなりました。

2009年2月号(第496号)では、「50年の歴史をもつ精神科」として「社会生活の中で支え、患者さんと決める治療」の実践について紹介しました。

2017年9月号(第599号)では、「50年の歴史をもつ精神科」として「社会生活の中で支え、患者さんと決める治療」の実践について紹介しました。

2008年末に派遣切りなどで職と住まいを同時に失って困窮する人々を支援する年越し派遣村(日比谷公園)に参加し、健康相談で支援を行った井上均院長(当時)を紹介しました。

千駄の萱

日本語としてはおかしなが「ご都合主義の茶番劇が吹き荒れた」としか言えない

日本語としてはおかしなが「ご都合主義の茶番劇が吹き荒れた」としか言えない。予算成立と課題遂行のために解散は考えていないと言いつつ、突然の衆議院解散に出た高市総理。「昨日の敵は今日の友」とばかりに内部の議員たちにすらくよく判らない状況で、政策もろくに出不せぬうちに新党結成に出た中道改革連合。選挙結果は記録的大勝利と壊滅的大敗というこれ以上無い明暗に分かれた。個人的にこの結果は中道結党という行為そのものが自爆であり、それがもたらした物と考えているが、事前に情報をつかんだ政権側が相手の体制が整わぬうちに先手を打った部分も大きい。自民党内でも任期の大半を残す状況での解散には強い抵抗が出ていたことからトップ戦略が当たったと言える。問題はこれだけの大勝により高市総理の影響力が大幅に強化され「安部一強」の構図が再現される事と、全体として政治の右傾化が顕著になる事。現在の不安定な国際情勢において、それは決してプラス要素ではない。白紙委任状を得たわけでは無いのだ。